

授業科目名	医療人文学		担当教員	足立 智孝	科目ナンバリング LE106
選択	開講年次：1年前期	単位：1単位	授業形態：講義15時間		

【授業概要】

文学作品には、人間をテーマとして扱ったものが多く、必然的に「生・老・病・死」に関する内容が多く含まれる。本コースでは、これらの医療に関係する小説(フィクション、ノンフィクション)、詩、随筆などを取り上げ、医療者や患者・障害者、あるいはその家族の感情の機微に対する理解を深めるとともに、その医療が行われた時代状況や、社会制度を俯瞰し、医療を多角的に捉える視点を学ぶ。

【達成目標】

1. 医療文学の多様性を知り、患者やその家族を多面的に理解する。
2. 時代状況や制度的観点から医療を理解する。
3. 物語能力(読み取る力(読解力)及び書く力(表現力))の必要性を理解する。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] イン트로ダクション：文学と医療
- [02] 医療のあり方：柳澤桂子『認められぬ病』
- [03] 死者を見送ること：滝田洋二郎監督『おくりびと』映画
- [04] 障がいを持つこと：多田富雄『寡黙なる巨人』
- [05] 認知症を患うこと1：堤幸彦監督『明日の記憶』映画
- [06] 認知症を患うこと2：有吉佐和子『恍惚の人』
- [07] 家族の死を看取ること：砂田麻美監督『エンディングノート』映画
- [08] 死を迎えること：トルストイ『イワン・イリイチの死』

【教科書】

1. 柳澤桂子(1998)：認められぬ病、中公文庫
2. 多田富雄(2010)：寡黙なる巨人、集英社文庫
3. トルストイ(2006)：イワン・イリイチの死、光文社古典新訳文庫
4. 有吉佐和子(1972)：恍惚の人、新潮文庫

【参考書】

1. 青木新門(1996)：納棺夫日記、文春文庫
2. 荻原 浩(2007)：明日の記憶、光文社文庫

【評価方法・評価基準】

授業課題レポート(50%)、学期末レポート(50%)

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：教科書使用時は、事前課題に沿って教科書を精読する(2時間以上)。映画鑑賞時は、映画の内容について情報収集する(30分)。

事後学習：教科書使用時は、講義資料ならびに返却リフレクティブレポートをもとに、授業の振り返りをする(30分)。映画鑑賞時は、課題を作成する(30分)。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅰ. 教養教育で培う普遍的基礎能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業課題レポートは授業中にフィードバックを行う。学期末レポートは評価後にコメントをつけて返却する。

【備考】

特になし